宮城大学 後援会報 Vol.48

発　行
平成29年2月28日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381

編　集
宮城大学後援会事務局

主催事業「柳家花緑氏　講演会」
すべては「人なり」
～柳家花緑師匠の人間学講座＆高座

宮城大学後援会では大学祭に合わせて10月10日に大和キャンパス講堂にて恒例の講演会を開催しました。第17回の講師は人気落語家の柳家花緑師匠とあって、開場よりもずいぶん早くから後援会会員をはじめ教職員、在校生、そして一般の方々など多くのお客様が列を作りました。

「ラフなお話ですから」とカジュアルな洋服で登場した花緑師匠。意表を突かれている暇もなく、ハイテンポな講演がスタートしました。

▲講演はこんなカジュアルなスタイルで。

演題の「芸は人なり」は、祖父であり師匠である故五代目柳家小さんがつねづね語っていた言葉だそうです。「人間が大事。自分がそのまま芸に出るんだ」と、日々自分自身を鍛えながら落語の稽古を積む日常を送ったという小さん。

苦労人でありながらお金には執着せず、まるで人助けのために生まれてきたような小さんに、花緑師匠は中学を出てすぐ入門。22歳で最年少記録を更新して真打ちに昇進したお披露目の席では、落語協会会長でもある師匠から「七光どころか十四光。それで潰れるような奴なら、どのみち潰れますから」と痛烈な祝辞をもらいました。

花緑師匠はこの言葉を「チャンスは与えたよ。人の前に出ろ」というメッセージと受け止め、落語以外にもテレビに演劇の舞台にと積極的に出演するように努めて、芸の肥やしとしてきたそうです。

「国・社・数・理の通信簿はずっとオール1でした」という花緑師匠が大事にしていることは、引き立て支えてくれる人々への「感謝」。「一人きりで頑張ってみても、一人分の力。百人と関わって感謝をすれば、百人分、百倍の力をもらえます」。

噺とはまた一味違う軽妙な講演に魅了された1時間でした。

（後援会副会長　武田篤彦）

▲お待ちかねの高座の演目は「井戸の茶碗」。愚直なまでに「正直」を通そうと意地を張り合う二人の武士の人情噺で、講演のテーマにも相通じるものがありました。

主催事業「親のためのキャリア教育セミナー」初開催
親として子の進路への向き合い方を学ぶ

平成28年9月17日土曜日の午後1時30分から午後3時まで、大和キャンパス4階の400講義室において、事業構想学部特任准教授でキャリア開発の授業を担当されている宮崎良徳先生を講師にお迎えして、「親のためのキャリア教育セミナー」を開催しました。これは、親として子の進路への向き合い方を学ぶもので後援会の主催事業として初めて試みたものですが、当日は会員80人、家庭数では61家庭に参加いただきました。

会終了後の会員へのアンケートでは、「聞きたい話を聞けた」とする回答が96％を占め、笑いあり、身に覚えがあるという感じでうなずく姿ありと、終始、朗らかで明るい雰囲気の中、好評のうちに幕を閉じました。

特に、親子の対話において、親の方が反省すべき事例が多く示されました。子どもの方から何を相談しても親の方は否定的な答えや心配なことから先に言ってしまうケース等です。子どもだからとコントロールしようとしないで、サポートしてあげる心構えの大切さや、親子の間にも礼儀のあることを忘れて、子どもに相談する気をなくさせるような振る舞いをしていないか、そのような主旨のお話を聞いて、考え直した方も多かったようです。最後の質疑応答でも問わず語りに反省の弁を述べられる方もいらっしゃるなど、出席した方々には非常に実り多いセミナーとなったようです。

（後援会会計書記　阿部成雄）

▲子の進路への向き合い方を学ぶ保護者=9月17日、大和キャンパス400講義室

記事一覧
2面●後援会役員・学生代表意見交換会開く
シリーズ「絆」vol.17
3面●連載コラム、新入生交流会、
事業構想・食産業学部合同業界研究セミナー
4・5面●大学祭2016、
第1回大和キャンパスホームカミングデイ
6面●六限の図書館、「三陸ほや物語」プロジェクト
7面●創立20周年記念コンサート、
大学創立20周年記念ロゴマーク決まる
8面●教員からの一言、保健室、後援会終身会員制度の
ご案内、総会案内、大学からのご案内

宮城大学後援会報 vol.48 ｜ 平成29年2月28日発行 ｜ 編集・発行 宮城大学後援会事務局
〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
公立大学法人宮城大学 学生支援グループ内
TEL：022(377)8381
FAX：022(377)8282
E-mail：kouenkai@myu.ac.jp
URL：http://www.myu.ac.jp/~kouenkai/

教員からの一言

地域創生への取り組み

事業構想学部教授
舟引　敏明

弘前城を市民が曳家したニュースを覚えていますか。弘前市は、歴史的な資産を保存し伝統的な祭礼を守り伝える一方で、若者のストリートダンスのまちとしても有名ですし、弘前デザインウィークなど斬新な取り組みも知られています。

先日、葛西弘前市長にお話を伺う機会を得ました。「曳家プロジェクトに見られるように、観光客と地域の住民がふれあい、共感し感動を共有すること、歴史的な街並みを守り、〝ねぷた〟などの祭りを続けること、それが市民の誇りを生み、市民や若者がプレーヤーとなるまちづくりに繋がる。ただしそれだけでは不十分で、様々な取り組みで情報発信を続けること、そして新しい取り組みをどんどん受け入れ次のプレーヤーを育てることにつながることも重要だ」など貴重なお話でした。

4月からは新学群制度に移行し、新しく地域創生学類も誕生します。宮城そして東北を元気にするために、このような取り組みを、学生とともに学んでいきたいと思います。

平成 29 年度 後援会総会を開催します。

平成 29 年度後援会総会を宮城大学大和キャンパス講堂で開催いたします。議題は、平成 28 年度事業報告・決算報告、平成 29 年度事業計画・予算案などです。ご出席くださいますようご案内いたします。

●日　時　平成 29 年 4 月 2 日（日）
　　入学式終了後 12 時 10 分～ 12 時 40 分（予定）
●場　所　宮城大学大和キャンパス　講堂

編集後記

昨年 12 月、宮城大学の創立 20 年を祝う記念コンサートが開催されました。これに続いて大学では今年様々な催しが予定されています。ともに 20 年を迎える後援会でも昨年から記念事業の準備を進めており、記念誌の作成、学生の就職活動（公務員試験対策）支援、公開イベントの開催など、新年度からの実施を目指しています。

大学が大きく変わる節目の年を皆さまの記憶に刻んでいただけるよう、一年間会報でその様子をお伝えして参ります。紙面についてのご意見、ご感想をお寄せ下さい。　（S・I）

保健室から

太白保健室の新しい“顔”
佐藤裕子先生をご紹介します。

健康生活（心と体）のお手伝いを

太白キャンパス保健指導員　佐藤裕子

平成28年4月から太白キャンパス保健指導員として勤めております佐藤裕子と申します。3月まで公立小中学校の養護教諭として勤めておりました。どうぞよろしくお願いいたします。

大学での生活は、小中高校時とは異なり親元を離れ一人暮らしを始め生活全般を自分の責任で行わなければならなくなる、また学業とアルバイトやサークル等との両立が必要になる等で、健康を維持していくことはなかなか容易ではありません。しかし規則正しい生活を毎日丁寧に積み重ねていくことが、健康生活を維持する為には大切だということを知って欲しいと願います。1日1日自分の心と体の状態に関心を持ち、心と体からのサインに耳を傾けて生活をして欲しいと思います。いつもと何か違うなと感じたら、そのままにせずに立ち止まって向き合って欲しいと思います。その時に一緒に考えていくお手伝いができればと考えております。

何かあった時に、行ってみようと思って貰える身近な存在としての保健室になれたらと思います。

後援会終身会員制度のご案内

後援会では保護者の方々が、学生の卒業後も宮城大学を支援する終身会員制度を設けています。

卒業生の保護者の皆さまの希望によりご加入いただくものですが、これまで多くの方々に入会いただき、大学の精神的な支えとなっています。会員の方には年2回発行の会報、及び主催事業の案内等を20年間送付致します。

大学間の生き残りをかけた競争が激化する中、自主自律の運営を目指す宮城大学を、更なる充実した支援で、物心両面から支えてまいりたいと考えております。

今年度卒業を予定されている保護者の皆さまには、改めて御案内いたしますので、何卒、制度の趣旨を御理解いただき、多くの方に御賛同いただきますようお願いいたします。　（後援会事務局）

大学より卒業式のご案内

平成28年度宮城大学卒業証書･学位記授与式を挙行しますので、ご出席ください。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。なお、式場内の座席数は限られているため、満席となった場合は、式場外のモニターでご覧いただくことになりますので、ご了承ください。

式典の詳細は、大学ホームページに掲載しております。
（URL:http://www.myu.ac.jp）

■日時：平成29年3月19日（日）
　　受付／午前9時開始　式典／午前10時～11時30分頃
■場所：宮城大学大和キャンパス講堂

学務課☎022（377）8215

コラム column

科学は、おいしい料理を作ることができるのか？ ～分子調理への誘い～ ㊦

「料理」と「科学」のおいしい出会い

食産業学部准教授　石川　伸一

京都の料亭『菊乃井』の村田吉弘さんは、各国で伸び盛りのシェフに日本料理を説明する際、型どおり「歴史や季節感を生かすことだ」などと言ってもあいまい過ぎて相手に伝わらず、「なぜそうするのか」を科学的に納得させる必要を感じていらっしゃいました。

村田さんらは、京料理の要となる昆布だしについて、大学の研究者らによる実験で「昆布のグルタミン酸を最大限に抽出するには六十℃を保って一時間加熱するのがいい」という結果が出ました。

仲間同士でふだんのやり方を比べると、火にかける時間は二十分～八十分までバラバラで、徐々に温度を上げて沸騰直前に取り出し、カツオ節を加えてふたたび沸騰したところで火を消す、というのが一般的なだしのひき方でした。よりよい方法がわかったなら、それを試したい。京都の老舗料亭は、ためらいませんでした。

これこそが「料理と科学の理想的な出会い」なのではないかと思います。料理人が「科学」という“フィルター”を新たに持つことで、料理はさらに前へと進み、よりおいしい料理の発展につながっていくことでしょう。

「料理と科学」の将来を考える上で、すでにいろいろな意味を持ち過ぎてしまった「分子ガストロノミー」という言葉ではなく、「分子調理」という言葉の定義から、おいしくて、新しい料理を考えてみます。

「分子調理“学”」は、「食材→調理→料理」のプロセスにおいて、食材の性質の解明、調理中に起こる変化の解明、おいしい料理の要因の解明などを分子レベルで行う“科学”であると定義します。それに対して、「分子調理“法”」は、おいしい食材の開発、新たな調理方法の開発、おいしい料理の開発を分子レベルの原理に基づいて行う“技術”であるとします。

分子調理“学“と分子調理“法”は、互いに関係し合い、科学の分子調理“学”で発見した科学的知見を技術の分子調理“法”へと活かし、また反対に、分子調理“法”によって生まれた新しい技術から分子調理“学”における新たな知見を引き出すといったように、お互いが刺激し合うことで活性化します。

料理人と科学者がお互いの専門性を尊重しつつも、「餅は餅屋」の発想を超えて、相手の専門を深く理解しようとする気持ちが、料理を次のステージに引き上げるのではないかと感じています。

石川 伸一　（いしかわ しんいち）

1998年東北大学大学院農学研究科修了。日本学術振興会特別研究員、北里大学助手・講師、ゲルフ大学客員研究員などを経て、現職。著書に、『「もしも」に備える食』（清流出版）、『料理と科学のおいしい出会い』（化学同人）、『大震災を生き抜くための食事学』（主婦の友社）などがある。

後援会役員・学生代表意見交換会開く

学生に寄り添う支援を

後援会役員と学生代表の意見交換会が、11月10日に大和キャンパスで、11月15日に太白キャンパスで、それぞれ行われました。

各学生会からの活動報告後、役員・教職員から質問やアドバイスが出され、和やかな雰囲気の中、積極的な意見交換がなされました。

大和キャンパスでは、大学祭実行委員会以外の委員会活動で、人員確保が課題として挙げられ、各委員会で協力し人材を補い合おうという提案が意見交換の過程で学生側から生まれました。さらに教員から、街づくり手法「アダプト・プログラム」の3法則【1. 誰の活動かの痕跡を残す。2. 活動の様子を見せる。3. 活動に参加したいと思ってもらう。】が示され、有意義な展開となりました。

太白キャンパスでは、大学祭実行委員会から「他大学は3年生が委員長になって活動しているので、経験を積んで運営できるよう3年生が活動できるようにしたい」との意見が出されました。教職員からは、前例にとらわれることなく、改善に繋がると思うことは積極的に変えていくようアドバイスされ、大学生活におけるサークル活動の意義を問い直す貴重な議論に発展しました。

また、両キャンパスに対し、後援会によるサークル活動への助成が、適切な支援として機能することを目指し、役員や事務局による予算・決算事務手続きの指導・サポートを継続することが確認されました。

後援会は、今後も、学生に寄り添った支援を心がけ活動してまいります。

（後援会副会長　齋藤浩美）

▲意見交換の様子（上）大和キャンパス

絆 No.17

隠れた魅力

キャリア開発センター進路指導員　馬場 容子

在校生、卒業生、保護者、教職員などさまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。今回ご登場いただくのは、キャリア開発センターで、進路指導員を務める馬場容子さんです。大学では美術を専攻し多彩な経験を持つ馬場さんですが、ご自身の進路指導の原点をどのように捉えているのでしょうか。

宮城大学キャリア開発センターにて進路指導を務めて8年が経過いたしました。『個々の状況を踏まえて学生と共に働くとは』という観点から支援して参りました。

大学時代、私は授業のなかである教授の指導方法に大変共感した出来事がありました。油絵の作品評価会でのこと、学生が描いた作品に対して私たち学生が評価を述べるというものです。学生の作品なので観るからに欠点だらけの作品が多くどこをどう見ても高評価を生むものではありませんでした。しかし、教授は「欠点は誰にでも見える。だが、この作品にしかない魅力があるはず。それを3つ選んで評価しなさい」というものでした。未熟な作品の隅から隅まで目を凝らしながら観察し、配色やら構図の取り方、果てはサインの入れ方など、思いつく限りをその作品の中から見出しました。

この授業の経験のおかげで、どこにでも誰にでも魅力があり高評価を生むものがあると実感しました。これが今の私を形成しているのかもしれません。学生はそれぞれに本来の魅力を持っています。目に見えないものや、ちょっと隠れている魅力を引き出すことで、もっと大きなチャンスを生むことができるのです。そのチャンスのお手伝いを今後も続けてまいります。

先日、私はプチチャレンジをしました。公募された本学20周年に向けたロゴマークを作成し応募しました。「知」をイメージさせる知恵の輪が20年の大樹となって力強く輝いている様を表現してみました。結果は落選でしたが、改めて宮城大学の魅力を見直す大変良い機会となりました。今後もプチチャレンジを続けていきたいと考えております。

▲魔除け猫＜土粘土＞

▲曼陀羅＜ペン画＞

▲ゆり＜水彩画＞

▲鬼瓦＜土粘土＞

平成28年度合同業界研究セミナー

延べ87社の協力を得て、学生の職業観を醸成する

12月7日（水）・8日（木）の2日にわたり、大和キャンパス体育館で、キャリア教育の一環として事業構想学部・食産業学部の学生を対象とした合同業界研究セミナーを開催しました。このセミナーは、企業・団体の人事担当者や本学OB・OGの皆さまから、業界や企業について説明をしていただくことにより、学生の職業観を醸成し、職業適性や学生自身のキャリアについて考える機会を提供することを目的として開催しております。宮城県内や首都圏等から、7日は43社、8日は44社の企業・団体に参加していただきました。事前に業界・企業研究やブースの回り方に関するセミナーを実施していたこともあり、両学部の3年生を中心に延べ405人の学生が参加し、時間の許す限り、多くのブースを回り説明に耳を傾けていました。目前に迫った就職活動開始に向け、学生は着々と準備を進めております。皆様方の引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

（学務課　萩野俊輔）

MYUFES.2016―大和C10月9・10日、太白C10月15・16日

両キャンパスとも運営方法を工夫、実りある祭典に

ようこそ太白へ！

太白のマスコット“しょつ君”

餅まきと野菜販売は食産の伝統

キャンパスの住民“小うめ”

ダンス　オン　ステージ

太白ならではの農業体験

腕に自信あり！食産の露店はどれもみんなおいしいよ♡

「いただきます～食材に感謝を込めて」をテーマに開催した太白キャンパス大学祭。来場者、実行委員ともに大きな事故もなく盛況のうち無事に終えることができました。協賛していただいた企業の皆さまや学園祭を開催するにあたって支援していただいた皆さまに感謝とお礼を申し上げます。

今年はお化け屋敷のアトラクションと模擬店がコラボし、お化け屋敷で５０円の入場料を頂き、それを模擬店の割引券として還元するという来場者の流れの仕組みを作ってみました。その結果、お化け屋敷や各模擬店にこれまで以上たくさんの方々に来ていただいたと感じます。またゲストのアナクロニスティックさんとラバーガールさんによるお笑いライブの会場は来場者で溢れ、大変盛況でした。ライブの開始時間をオープンキャンパスのガイダンスが終わる時間にしたことも、多くの方々に参加していただくことにつながったと思います。

今年はイベントの成功だけでなく、運営方法を工夫しそれが結果につながり、私たち実行委員にとって達成感を感じることができた、大きな収穫のある大学祭でした。

太白キャンパス大学祭実行委員長
ファームビジネス学科 柴田 優

Who ？

若さあふれるステージ

露店は祭りの定番メニュー

テーマが“水族館”なので…。

実行委員大集合！

来場者で溢れた池前広場

大和のマスコット“ミュー君”

おかげさまで、今回も無事に大和キャンパス大学祭を終えることができました。

今年度は池前ステージが大きな盛り上がりを見せました。仙台タウン情報誌S - styleの出版社・プレスアートとクーポンアプリ「さぽ～れ」を運営する株式会社OTOとタイアップし、アプリを使用した宮城大学学生限定参加の抽選会を行いました。初めての試みでしたが、予想以上に多くの学生が参加し、今後継続される企画となりました。またゲストに迎えたニホンジンプロジェクトのステージも、多くの方々に足を運んでいただき大変楽しんでいただけました。そのほか大学祭のテーマをモチーフとした階段アートやキャラクターオブジェなどの装飾物や毎年恒例のエンディングの花火も大変好評でした。大学祭を通して、少しでも多くの方々に宮城大学を知っていただければ幸いです。

皆様方の多大なお力添えで、今年も大学祭は成功を収めることができました。この場をお借りしまして、大学祭実行委員会一同、深く感謝し、御礼申し上げます。

来年も素晴らしい企画で、皆さまをお待ちしております。引き続き応援をよろしくお願い致します。

大和キャンパス大学祭実行委員長
事業計画学科2年 星 寛大

フィナーレを飾る花火

第1回大和キャンパスホームカミングデイ開催

同窓会の輪を広げ、在校生と卒業生が交流

事業構想学部デザイン情報学科3年　藤田 春樹

宮城大学は、１９９７年の開学から数えて20周年の節目を迎えようとしています。これを機に、今回初めて、同窓会と学生会が共同で企画し「大和キャンパスホームカミングデイ」を大学祭併催で開催しました。これは同窓生の絆を深め、同窓会の在り方をより確かなものにするために、卒業生が集い旧交を温めることはもちろんですが、在校生が卒業生と交流できる機会を設けたものです。

今回は10人の卒業生を迎え、学生時代のエピソードや、現在の仕事、キャリアについてお話をしていただきました。当日は全講演を通して、学生や一般のお客様約１５０人が参加し、第1回としては十分なものだったと思います。中でも現在仙台市の中学校で養護教諭を務める1期生の對馬優子さんと、コンサルタントなど若手企業家として活躍する7期生の若新雄純さんの講演には多くの学生がつめかけました。私たち学生にとって、将来について学べる大変有意義な講演会となりました。登壇いただいた諸先輩に心から感謝申し上げます。

現在、今年8月に大和・太白両キャンパスの同窓生と恩師を一堂に会した祝賀会「宮城大学創立20周年記念同窓会パーティー」の開催を企画しています。卒業生が母校に帰る一つの形として、またこれからの卒業生を受け入れる形として、同窓会の強い基盤を作る大きな1年になることと思います。今後とも皆さまの温かいご支援、ご協力を、どうぞよろしくお願いします。

講演する若新雄純さん（2007年卒　第7期生）

地域も注目
宮城大学総合情報センターの取り組み

六限の図書館

総合情報センター長
事業構想学部教授　茅原　拓朗

去る2016年11月18日(金)、盛況のもとに図書館イベント『六限の図書館 vol・10』を開催しました。『六限の図書館』は学内外の皆様にもっと宮城大学図書館のことを知っていただき、また「使って」いただくために2014年度から行っている図書館の自主イベントです。

これまで著者・編集者によるトーク、上映会、ワークショップ等、さまざまな形を試みてきましたが、記念すべき第10回目となる今回は、大変幅広くユニークな研究を展開されていることで知られる細馬宏通氏(滋賀県立大学教授)をお招きして「いかに私たちはコミュニケーションをやりとげるのか?」をテーマに氏の近著『介護するからだ(医学書院)』でも紹介されている人間同士の精妙なコミュニケーションのあり方についてお話をいただき、その後、本学教員をファシリテーターとしてグループ・ディスカッションを行いました。コミュニケーションや介護の問題に関心をもつ本学教職員・学生に加え地域からも多数のご参加をいただき、学生たちと地域の皆様が時間を延長して熱心かつ和気藹々と議論している姿はとても印象的でした。これからも『六限の図書館』にどうぞご期待ください!

(上)細馬弘通氏による講話
テーマは「いかに私たちはコミュニケーションをやりとげるか?」=宮城大図書館
(右)地域の方々も多数参加したグループディスカッション

食産業学部フードビジネス学科の学生が、宮城の特産「ほや」で食品開発に取り組んだ「三陸ほや物語」プロジェクトをご紹介します。

ほかほかご飯とほっこり汁、お歳暮商戦の目玉に

食産業学部教授　西川　正純

本プロジェクトは、宮城県の特産品である「ほや」が、福島原発事故の問題で韓国から輸入禁止を受け廃棄されたり、生鮮品の国内需要が伸び悩んでいることから、ほやの加工品を新たに開発しほや需要の拡大と復興支援を目的に、地元老舗デパートの藤崎、ほや養殖・加工業者と連携しスタートした。食産業学部フードビジネス学科3年生6名を中心に昨年7月から始動し、「ほやの旨味を活かした商品」を基本コンセプトに、養殖現場の視察や試作を重ね「ほかほかほやご飯の素」「ほっこりほや汁」を作り上げた。ご飯の素は、ほやの殻からの出汁を基本に、昆布、鰹節で旨味を整え、また、ほや汁はほやに宮城の笹かまと白菜、エノキダケを贅沢に加えるなど、両商品共どの世代でも受け入れられる味となった。プロジェクト始動時からマスコミの注目を浴びたこともあり、藤崎のお歳暮商戦の目玉となり、学生達の写真がお歳暮カタログの表紙を飾った。

本取り組みは学生にとって、これまで学んだ知識を活かし企業と新商品を共同開発する貴重な経験となったが、それにも増して宮城県の特産品である「ほや」を全国に広める良い機会となり、東日本大震災からの復興支援に繋がる象徴的なプロジェクトとなった。

宮城大学創立20周年記念コンサート

20年を祝う「歓喜」の大合唱

1997(平成9)年に開学した宮城大学の「創立20周年・創基65周年記念コンサート」が、2016(平成28)年12月23日の天皇誕生日に、大和キャンパス講堂で開かれました。これは創立20周年を記念する大学主催事業のキックオフ・イベントで、会場には約600人の観客が詰めかけ、コンサートを楽しみました。

プログラムは3部構成、まず初めにアカペラサークルLEGOによる歌声のハーモニーでスタートしました。第2部は、「創立20周年記念ロゴマーク」の披露式を行い、公募を勝ち抜いた制作者の米倉奏多さん(事業計画学科1年)に、賞状と賞金10万円が贈呈されました。

そしていよいよ第3部は、宮城大学管弦楽団と、このコンサートのために地域の方々、本学学生・教職員などで結成された総勢130人余りの宮城大学20周年記念合唱団による、ベートーヴェン作曲「交響曲第九番ニ短調作品125〝合唱付〟」の演奏です。指揮は渡部勝彦氏、ソリストはソプラノ・渡部ジュディス、アルト・高山圭子、テノール・松尾英章、バリトン・高橋正典の各氏。迫力の演奏が観客を魅了し、会場は記念コンサートにふさわしい感動に包まれました

(後援会会計書記　阿部成雄)

大学創立20周年記念ロゴマーク決まる

大学が創立20周年を迎えるにあたり、デザインを公募した記念ロゴマークに、応募作品40点の中から、事業構想学部事業計画学科1年米倉奏多(よねくらかなた)さんの作品が選ばれました。選ばれたロゴマークは使い方やデザインの展開など、今後、詳細が決定され、幅広く活用されます。

デザインの制作意図・コンセプトについて米倉さんのコメントを紹介します。

正三角形の組み合わせにより「20」を表現しました。この図形を折り合わせると、正二十面体が完成します。正三角形は、宮城大学の3つの学部(事業構想・看護・食産業)の連携をイメージし、20枚の正三角形の組み合わせにより正二十面体になります。3次元空間で最大の面数を持つ正二十面体は、「知」の象徴であり、地域を包み込む宮城大学のシンボルとしてふさわしいと考えデザインしました。

みがけ「知」域の力
この地で輝く 宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

記念事業に先駆けて昨年12月に行われた「宮城大学創立20周年記念コンサート」で、決定したロゴマークが披露され、制作者の米倉さんに西垣学長から賞状と副賞が贈られました。